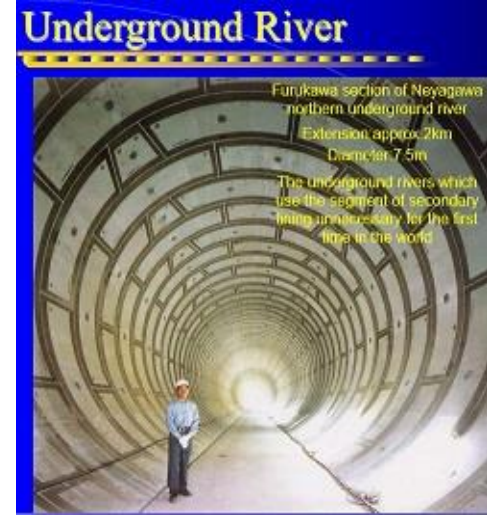


温暖化の影響で巨大化した災害も「正しく恐れて、安全に逃げる」

コロナ禍で海外赴任が難しくなっても。渡航費（飛行機代や滞在費）を財源に、通訳費用を捻出すれば、外国語が得意でなくても、自身の経験や専門が生かされます。これからは国際協力も形が変わってきてそうです。動画は英語通訳付日本語説明です。ご活用下さい。

- VIDEO** 講義 1 「寝屋川総合治水対策」
- VIDEO** 講義 2 「想定超リスクの対処」
- VIDEO** 講義 3 「洪水ハザードマップ」
- VIDEO** 講義 4 「タイムライン」
- VIDEO** 講義 5 「防災意識啓発」 **資料**



事業名：令和3年度自治体国際協力専門家派遣（消防防災）
派遣先：フィリピン共和国バギオ市災害リスク軽減管理局
派遣期間：令和4年2月14日から2月18日（5日間）

バギオとは、フィリピンにおける台風の呼び名で、ルソン島北部のバギオ市に由来する。1911年7月14日、ルソン島北部に上陸した台風による豪雨と洪水によってルソン島各地で大災害があり、このときバギオ市では24時間に1168ミリメートルという当時の世界記録の降水量を記録しました。



人的交流の難しいリモートでのコミュニケーションですが、最終日には、防災や治水の話題だけでなく、コロナ終息後のインバウンド復活を視野に、バギオ市のみなさんに、2025年の大阪万博のPRと京都や神戸など関西の魅力を発信することで交流を図りました。